

香川県小豆島で「持続可能な観光」合同先進地視察を実施

【ブランディング】

2月2日（月）、3日（火）の2日間にかけて、「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク」の活動の一環として、先進的に持続可能な観光に取り組む香川県小豆島（土庄町、小豆島町）の視察を行いました。

なお、本視察は、一般社団法人持続可能な観光推進協議会（※）との合同で実施させていただきました。

1日目は、一般社団法人小豆島観光協会事務局長の塩出慎吾氏から、小豆島における持続可能な観光の取り組みについて講演いただきました。続く、成果報告では、本ネットワーク事務局のほか、グリーン・DESTINATIONS（本部：オランダ）の2025年版「世界の持続可能な観光地TOP100選」（以下、TOP100選）に選出された香川県丸亀市、三豊市、高知県黒潮町から、各地での取り組み事例を発表いただきました。また、一般社団法人持続可能な観光推進協議会の参加団体からもそれぞれの取り組みを共有いただき、活発な情報交換を行うことができました。

2日目は、過去のTOP100選において、「グッド・プラクティス・ストーリー」として特に高く評価された「中山千枚田・中山農村歌舞伎舞台」と「道の駅小豆島オリーブ公園」を視察しました。現地関係者の皆さまによる解説を通じ、地域資源の保存と観光活用の両立について、深い知見を得ることができました。

今回の視察で得られた成果を活かしながら、引き続き「サステナブルアイランド四国」のブランド拡大に向け、ネットワーク会員の皆さまとともに持続可能な観光地づくりを推進してまいります。

※ サステナブルツーリズムの推進に向けた広域連携を図ることを目的に、2021年7月に設立。（株）かまいしDMC（岩手県釜石市）を中心に、持続可能な観光に関する国際表彰等を取得する北海道弟子屈町や岐阜県高山市など8地域が参画。四国からは徳島県三好市、愛媛県大洲市が参画している。

実施日	2026年2月2日（月）～3日（火）
実施場所	講演等：小豆島ふるさと村ふるさと荘交流センター 視察：中山千枚田、中山農村歌舞伎舞台 道の駅小豆島オリーブ公園 (いずれも香川県小豆島町)
参加者	四国「持続可能な観光」推進ネットワーク 16団体29名 ※アドバイザー・オブザーバー含む。事務局除く。 (一社) 持続可能な観光推進協議会 8団体14名
参加団体	三好市、上勝町、(一社) みなみ阿波観光局、(一社) そらの郷、高松市、(一財) 丸亀市観光協会、土庄町、小豆島町、(一社) 小豆島観光協会、内子町、(一社) 内子町観光協会、(一社) キタ・マネジメント、中土佐町、(一社) 黒潮町観光ネットワーク、四国運輸局、徳島県、(株) かまいしDMC、釜石市、(一社) TESHİ-COLOR（北海道弟子屈町）、(一社) 安中市観光機構（群馬県安中市）、(一社) 飛騨・高山観光コンベンション協会（岐阜県高山市）、(一社) ヨン島観光協会（鹿児島県与論町）、(同) デトロイトトーマツ、追手門学院大学
機構参加者	桑村本部長、松本チームマネジャー、井上マネジャー



講演・意見交換の様子



視察の様子（中山千枚田）



視察の様子（道の駅小豆島オリーブ公園）

(公社) 香川県観光協会主催「広域観光研修会」に出席

【ブランディング】

2月5日(木)、香川県三豊市で開催された、公益社団法人香川県観光協会主催の「広域観光研修会」に出席しました。

本研修会では、一般社団法人三豊市観光交流局事務局長の石井紫氏から、マーケティング戦略や組織改革などの取り組みをご講演いただきました。続いて、2025年6月にオープンした宿泊施設「NIPPONIA 仁尾 水鏡の町(みかがみのまち)」を運営するNIO YOSUGA株式会社代表取締役の竹内哲也氏から、施設のコンセプトや地域住民との交流を重視した運営体制についてご紹介いただきました。

また、講演後に実施された視察では、「NIPPONIA 仁尾 水鏡の町」をはじめとする町内の歴史的な街並み、そして同市を代表する観光スポットである「父母ヶ浜(ちちぶがはま)」を訪問しました。

観光客の受け入れと地域資源の保全を両立させる現場の取り組みを直に拝見し、今後の四国における持続可能な観光地づくりのヒントとなる貴重な知見を得ることができました。

開催日時	2026年2月5日(木) 14:00~17:15
開催場所	講演：仁尾町文化会館 視察：NOPPONIA 仁尾 水鏡の町、父母ヶ浜 等 (いずれも香川県三豊市)
機構出席者	松本チームマネジャー、井上マネジャー



研修会の様子



視察の様子(「NIPPONIA仁尾 水鏡の町」)



視察の様子(父母ヶ浜)

「2025年度 第4回修学旅行研究会」に出席

【ブランディング】

2月6日(金)、東京都で開催された「2025年度 第4回修学旅行研究会」に出席しました。本研究会では、事務局から今年度の活動実績と次年度の活動計画案について説明がなされた後、各出席者からは今年度の振り返りと次年度の活動目標について共有が行われました。

当機構からは、今年度の取り組みとして、教育旅行向け観光コンテンツ冊子の改訂・増刷や、活用状況について報告するとともに、次年度の活動目標として、持続可能な観光を中心とした旅行会社等へのPR活動に注力していくことを共有しました。

開催日時	2026年2月6日(金) 15:00~17:00
実施場所	靖国九段南ビル(東京都千代田区)
出席者	(公財)全国修学旅行研究協会、学識経験者、各自治体観光協会、DMO、日本航空(株)、全日本空輸(株)
機構出席者	松本チームマネジャー、井上マネジャー

養殖ブランド牡蠣「アドミルク」(香川県東かがわ市)の取り組みを視察

【ブランディング】

2月18日(水)、香川県東かがわ市の安戸池(あどいけ)で生産される養殖ブランド牡蠣「ADOMILK(アドミルク)」を展開する株式会社ソルトレイクひけたを訪問しました。

今回の訪問では、本事業を牽引されている東かがわ市役所 官民連携マネージャーの寺西康博氏と株式会社ソルトレイクひけた所長の六車庄一氏から、牡蠣養殖を導入した背景や具体的な手法、収穫状況に加え、廃棄される殻を再利用した商品造成(キーホルダー等)など、循環型の取り組みについてご説明をいただきました。また、当機構からは、現在推進している「持続可能な観光」の取り組みを紹介したうえで、地域資源を最大限に活用する「ADOMILK」の養殖事業が、当機構の目指す持続可能な観光の方向性と極めて高い親和性を持つことを共有いたしました。

その後、実際に養殖現場を見学しながら、従来と異なる「シングルシード方式(※)」という養殖方法を採用することで、形状・品質ともに優れた牡蠣を育てるだけでなく、水質浄化にも寄与するという環境面でのメリットがある点などをご説明いただき、理解を深めることができました。

※ 牡蠣をバラバラの状態でカゴに入れて育てる方式。イカダから牡蠣を海中に吊り下げる「垂下式」と異なり、定期的なカゴの裏返しや大きさに合わせたカゴの入れ替えが必要となる。



養殖現場の様子



シングルシード方式のカゴ

視察日時	2026年2月18日(水) 14:00～17:15
視察先	(株)ソルトレイクひけた(香川県東かがわ市)
ご対応者様	東かがわ市役所 官民連携マネージャー 寺西 康博 氏 (株)ソルトレイクひけた 所長 六車 庄一 氏
機構参加者	桑村本部長、清水CMO、井上マネジャー

「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク」第12回会議を開催

【ブランディング】

2月19日(木)、徳島県三好市で「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク」第12回会議を、対面とオンラインのハイブリッド方式で開催しました。

会議では、事務局から今年度の活動実績と次年度の事業計画について報告したほか、2025年10月にUN Tourism(本部:スペイン)が実施する「ベスト・ツーリズム・ビレッジ2025」に認定された小豆島(土庄町・小豆島町)の事例紹介を行い、担当者から認定に至るまでの経緯や、国際的な評価を活かした今後の取組方針などについてご紹介いただきました。また、開催地の三好市からは、グリーン・DESTINATIONS(本部:オランダ)の2023年版「世界の持続可能な観光地TOP100選」に選出された「3年に一度の『祖谷のかずら橋』の架け替え」に関する取り組みについてご紹介いただきました。

会議終了後には、三好市と(一社)三好市観光協会のご協力のもと、伝統的な架け替え技術の継承等について解説いただきながら「祖谷のかずら橋」を視察しました。



会議の様子



視察の様子(祖谷のかずら橋)

次ページに続く

実施日時	2026年2月19日（木）13:00～17:00（※会議は14:40まで）
実施場所	会議：三好市地域みらい創発センター・ミライケ 視察：祖谷のかずら橋（いずれも徳島県三好市）
参加者	ネットワーク会員19団体ほか9団体（※）、41名 ※ アドバイザー：四国運輸局 オブザーバー：徳島県、愛媛県、高知県、鳴門市、（一社）三好市観光協会、（株）阿波銀行、（株）四国銀行、（一社）山陰インバウンド機構
機構出席者	桑村本部長、松本チームマネジャー、井上マネジャー、流マネジャー

四国カルスト広域連携推進協議会主催の講演会に参加

【ブランディング】

2月24日（火）、高知県津野町で、四国カルスト広域連携推進協議会（※1）が主催する講演会「国際基準で考える四国カルストから始まる持続可能な観光地域づくり」に参加しました。

講演会では、一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会理事の久保竜太氏を講師に、持続可能な旅行・観光の推進を目的としたGSTC（※2）国際基準を第1部でご紹介いただき、より実践的なアプローチとして、国際基準の指標を用いたモニタリングの重要性や有用性について第2部で解説いただきました。

※1 愛媛県3市町（西予市、久万高原町、内子町）と高知県2町（梶原町、津野町）の5市町から構成。

※2 Global Sustainable Tourism Council（グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会）

開催日時	2026年2月24日（火）15:00～17:00
開催場所	津野町役場（高知県津野町）
参加者	四国カルスト広域連携推進協議会メンバー 観光関係者など 約40名 ※オンライン参加者含む。
機構参加者	松本チームマネジャー



講演の様子

Setouchi Vélo協議会 吉野川ミーティングに参加

【ブランディング】

2月25日（水）、徳島県吉野川市で開催された「Setouchi Vélo協議会 吉野川ミーティング」に参加しました。会議前に予定されていたトライアルライドは悪天候のため中止となりましたが、四国八十八ヶ所霊場第8番札所熊谷寺や地元の農産市など、地域の観光資源を視察しました。

会議では、開催地である吉野川市から「自転車を活用したまちづくり」について、また、株式会社眞鍋商会から「地域創生に寄与するサイクルツーリズムの実践」、徳島大学から「自転車観光政策後進地域におけるサイクルツーリズムの実装」と題して講演が行われました。続くパネルディスカッションでは、プロサイクリストの門田基志氏を進行役に、自治体担当者やサイクル雑誌の編集長などのパネリストの方々が、サイクリングガイドの重要性や「高越山ヒルクライム」といった独自コンテンツの磨き上げ、地域住民の理解を深めながら自転車を移動手段や産業創出に繋げる「持続可能な地域づくり」の可能性について、活発な議論が交わされました。

当機構では、Setouchi Vélo協議会が掲げる「瀬戸内地域を、環境に配慮した世界に認められるサイクリングの推進エリアにする」という理念のもと、引き続き同協議会と連携し、四国におけるサイクルツーリズムの振興とブランド確立に取り組んでまいります。

次ページに続く

開催日	2026年2月25日（水）
開催場所	日本フネン市民プラザ ほか（徳島県吉野川市）
機構参加	三好マネジャー



集合写真



視察の様子（第8番札所熊谷寺）



パネルディスカッションの様子

「春の四国は何がある？ 四国観光物産展」を開催

【マーケティング・国内】

2月7日（土）、8日（日）の2日間、兵庫県明石市のJR明石駅前にある「あかし市民広場」（複合施設「パピオスあかし」内）で、四国4県と四国旅客鉄道株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社と合同で「春の四国は何がある？ 四国観光物産展」を開催しました。

イベントでは、春休みシーズンを前に、これから計画できる四国観光をテーマに、四国の春の魅力を伝える写真パネル展やご当地キャラクターによるグリーティング、四国観光クイズ大会などを実施しました。また、ステージイベントでは四国を代表する「よさこい」や「阿波おどり」を披露し、多くの来場者に四国の多彩な魅力を体感していただく機会となりました。

引き続き、関西圏における四国の認知度向上と誘客促進に向け、関係各所と連携しながら取り組んでまいります。



ステージイベントの様子①



ステージイベントの様子②（ゆるキャラ）



ステージイベントの様子③（阿波おどり）

開催日	2026年2月7日（土）、8日（日）
開催場所	パピオスあかし「あかし市民広場」（兵庫県明石市）
参加団体	徳島県、香川県、愛媛県、高知県 四国旅客鉄道（株）、本州四国連絡高速道路（株） 四国グリーンツーリズム推進協議会、当機構
機構参加者	長谷部チームマネジャー、別宮マネジャー

FAMツアー参加旅行会社による四国プロモーションの実施

【マーケティング・海外】

この度、英国の旅行会社で、富裕層を主にターゲットとするテラーメイド型のFITを取り扱う、Destinology（デスティノロジー）社において初めて、四国を取り扱ったプロモーションを展開いただきました。同社は、先月号でご紹介したWendy Wu社と同じく、昨年9月、当機構と日本航空株式会社が共同で実施した視察ツアー（FAMツアー）に参加いただいた旅行会社です。

 Destinology



次ページに続く

(主なプロモーション)

- ①顧客36,000人の富裕層にDMにてパンフレット送付
- ②約250,000人の顧客（見込客含む）にeメール送付
- ③ブログ掲載

当機構では、招請事業などを通じて構築した海外旅行会社とのネットワークを活かし、具体的な商品造成と四国への送客拡大に向けて継続して取り組んでまいります。

「Japan Roadshow in シドニー」に出展

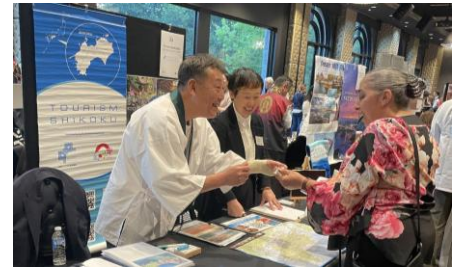
【マーケティング・海外】

当機構では、2023年5月に関西観光本部・山陰インバウンド機構・せとうち観光推進機構の広域連携DMO 4者が締結した連携協定に基づき、西日本が一体となって誘客を推進する「Greater WEST JAPAN」の取り組みを展開しています。

この度、豪州市場における富裕層や知的探求心の強い層をターゲットに、四国および西日本への広域周遊型旅行商品の造成・流通を促進するため、JNTO（日本政府観光局）シドニー事務所が主催する「Japan Roadshow 2026」に共同で出展するとともに、出展に合わせ、シドニーに拠点を置く主要な旅行会社10社へのセールスコールを実施しました。

引き続き、他の広域連携DMO等とも協働しながら、豪州市場からのインバウンド誘客拡大に向けた活動を推進してまいります。

実施日時	2026年2月2日（月）17:00～20:20
実施場所	Doltone House Hyde Park（オーストラリア・シドニー）
実施形態	事前マッチングなし、立席方式での自由商談
参加者	セラー46社、現地バイヤー約200社
機構参加者	竹内チームマネジャー
実施日	2026年2月2日（月）～4日（水）
セールスコール先 （※訪問順）	Kana travel、Kintetsu International Express、Onlylux Travel、Planet dwellers、JTB Australia Pty Ltd、Scenic Tours、Longton Travel、NIPPON TRAVEL AGENCY AUSTRALIA PTY.LTD、Tomato Travel、Groups by beyond



ブース出展・商談の様子



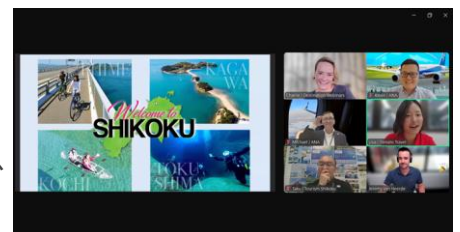
セールスコール後の写真

豪州旅行会社向けにウェビナーを開催

【マーケティング・海外】

「ANA誘遊四国キャンペーン2025」におけるインバウンド施策の一環として、豪州の旅行業界関係者を対象としたオンラインセミナー「四国ウェビナー」を開催しました。本ウェビナーは、2024年7月に当機構が実施した視察ツアー（FAMツアー）に参加いただいた、豪州の旅行会社 Bunnik Tours社とTomato Travel社のご協力を得て実現したものです。

セミナーでは、両社の担当者がFAMツアーを通じて自ら体感した四国の魅力を発信したほか、その体験を基に造成・商品化された「四国を含む訪日ツアー」の具体的な行程を紹介いただきました。また、全日本空輸株式会社（ANA）からは、シドニーおよびパース発の国際線ネットワークと、それに続く四国各県への国内線接続の利便性について解説があり、豪州からのアクセスの良さをPRしました。



ウェビナー登壇者

引き続き、今回の取り組みで強化した現地旅行会社や航空会社とのネットワークを最大限に活かし、豪州市場からのインバウンド誘客を推進してまいります。

実施日時	2026年2月18日(水) 10:00~10:50 (豪州時間 12:00~12:50)
実施形態	ウェビナー ※アーカイブを こちら から視聴いただけます。
登壇者	Bunnik Tours Jeremy van Heerde MR Tomato Travel Risa Tomizawa MGR ANAシドニー支店 Michael Fletcher MGR Kevin Peng MGR 当 機 構 桑村本部長
視 聴 者	豪州旅行会社 62名 (申込数131名)



ウェビナー登壇者 (Bunnik Tours社)



ウェビナー登壇者 (Tomato Travel社)

「令和7年度 第2回観光人材養成講座 観光庁勉強会」に登壇

【その他】

2月4日(水)、一般財団法人愛媛県観光物産協会が観光庁観光地域振興課と連携し、愛媛県内のDMOおよび自治体を対象とした勉強会を開催しました。勉強会では、観光庁から「登録DMOガイドラインの改正(令和7年10月改正)」の概要や、令和8年度に向けた観光庁の予算方針など、今後の観光地域づくりに重要となる内容について共有いただきました。また、続いて開催されたトークセッションでは、「四国における持続可能な観光地域づくり」をテーマに、各組織の取り組みについて発表が行われ、当機構からは、「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク」の活動内容を発表しました。

開催日	2026年2月4日(水)
開催場所	NOSA I えひめ(愛媛県松山市)
機構参加者	桑村本部長



勉強会の様子

「せとうち讃岐ジオパーク構想シンポジウム」に参加

【その他】

2月10日(火)、香川大学主催のシンポジウム「せとうち讃岐をユネスコ世界ジオパークに！」に参加しました。会では、池田香川県知事及び大西高松市長の挨拶に始まり、香川大学・長谷川修一特任教授による県内のジオ資源に関する調査報告のほか、「ユネスコ世界ジオパークを目指すには？」と題して、日本ジオパーク委員会の渡辺氏による基調講演があり、ジオパークのガイドラインや審査の重要ポイントを解説いただきました。続くパネルディスカッションでは、三好ジオパークなどの先進事例などを交え、認定に向けたロードマップについて多角的な視点から意見交換が行われました。本シンポジウムを通じ、ジオパーク構想による地域活性化や、地域の食・風土・文化を交えた「ジオツーリズム」の可能性を再確認する有意義な機会となりました。

開催日時	2026年2月10日(火) 13:30~16:35
開催場所	香川県社会福祉総合センター(香川県高松市)
機構参加者	半井代表理事、桑村本部長、神野副本部長 ほか1名



シンポジウムの様子

「第8回 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」に出席

【その他】

2月16日（月）、「第8回 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」に出席しました。本協議会は、四国圏域で多様な主体が連携・協働することで、コウノトリやツル類を指標とした生態系ネットワークの形成による地域活性化・経済振興の実現を図るための効果的な方策の検討と取り組みの推進を目的とします。四国各地域での取り組みや、協議会設立10周年記念シンポジウムの実施などについて、意見交換を行いました。

開催日	2026年2月16日（月）
開催場所	うずしお会館（徳島県鳴門市）
機構参加者	桑村本部長

「瀬戸内海国立公園における地域ストーリーの活用検討ワークショップ」に参加

【その他】

2月16日（月）、愛媛県松山市で開催された、環境省中四国地方環境事務所が主催する「瀬戸内海国立公園における地域ストーリーの活用検討ワークショップ」に参加しました。本ワークショップは、瀬戸内海国立公園の特性や地域資源を「地域ストーリー」として編み出し、その具体的な活用方法を検討することを目的に開催されたものです。当日は、Hiroshima Adventure Travelの佐藤亮太氏から、地域資源の魅力を効果的に伝え、活用するための視点について講義をいただいた後、参加者間で活用方法等を検討するワークショップを実施しました。

開催日	2026年2月16日（月）
開催場所	P・SPOイベントルーム（愛媛県松山市）
機構参加者	伊藤統括副部長



ワークショップの様子

「第11回 一日一斉おもてなし遍路ウォーク」に参加

【その他】

2月23日（月・祝）、NPO法人遍路とおもてなしのネットワークが主催する「第11回 一日一斉おもてなし遍路道ウォーク」に参加しました。本イベントは、本格的な遍路シーズンを前に、参加者が四国各地の遍路道を一斉に歩き、道中の点検や清掃を行うもので、四国遍路への関心を高めるとともに、世界遺産登録に向けた機運醸成を図ることを目的として開催されています。

今回は、昨年に引き続き四国4県の知事も各地域で参加されたほか、申込者総数が過去最高の10,950人に達するなど、大きな盛り上がりを見せました。当機構チームは、香川県の善通寺から丸亀駅までの区間を歩き、危険箇所や案内標識の視認性、道に迷いやすい箇所の有無、トイレ・休憩所の設置状況などを点検しました。

開催日	2026年2月23日（月）
開催場所	善通寺～金蔵寺～道隆寺～丸亀駅（香川県）
機構参加者	半井代表理事 ※同NPO法人の理事長として参加 桑村本部長、伊藤統括本部長 ほかに12名



出発前の集合写真

「第4回 せとうち魅力発見会議」に出席

【その他】

2月26日（木）、本州四国連絡高速道路株式会社が主催する「第4回せとうち魅力発見会議」に登壇者として出席しました。会議では「交流人口の拡大を軸とした高付加価値旅行者の増加に資する課題と解決策」をテーマに、当機構を含む4団体がそれぞれの取り組み事例を発表しました。当機構からは、四国観光の現状と課題を整理したうえで、具体的な取り組みとして「持続可能な観光」の推進や、欧米豪市場をターゲットとした「アドベンチャートラベル（AT）」の展開について紹介しました。

その後のグループディスカッションでは、官民・地域の枠を超えた多様な団体と、高付加価値旅行者の受入体制整備に向けた意見交換を行いました。議論において、地域のストーリーを深く伝えるガイドの育成や、広域連携による戦略的な情報発信の重要性が挙げられました。

引き続き、様々な関係団体と意見交換を行うなど、連携を深めながら四国への誘客を推進してまいります。

開催日	2026年2月26日（木）
開催場所	ホテルセントレ神戸・舞子（兵庫県舞子市）
参加者	34団体51名
機構参加者	竹内チームマネジャー、三好マネジャー



発表の様子

今月のオウンドメディア等

(清水CMOからの情報)

次期「[観光立国推進基本計画](#)」において「AIの活用を含めた観光・地域交通のDX」が盛り込まれる予定であるなど、観光分野におけるAI活用は不可欠な課題となっています。一方で、旅行者目線で具体的にどのようにAIが活用されているかについては、未だ十分に整理されていないのが現状ではないでしょうか。そこで今回は、私自身の2020年（ベトナム訪問時。過去の紹介記事は[こちら](#)）と2026年（マレーシア・ランカウイ島訪問時）の行動履歴を比較し、「旅マエから旅アト」に至る、AIを含むデジタル環境の変化に伴う行動態様の変容を整理いたしました。今後のAI活用の検討における一助となれば幸いです。

段階	認知・関心向上 旅行先として認知	比較・検討 旅先の候補地検討	予約・購入 旅先を計画し実行	体験・消費 現地を訪れる	再訪 旅行後、共有
	【2020年当時】 ・テレビ番組 ・友人の口コミ ↓ 【2026年現在】 ・Gemini ・Googleマップ	・個人ブログ ・検索サイト ↓ ・YouTube ・Gemini	・検索サイト ・OTA ↓ ・Googleマップ ・OTA	・検索サイト ↓ ・Gemini	・SNS投稿 ↓ ・SNS閲覧
利用媒体と行動	<p>訪問先（マレーシア）で四国の観光資源と似ている地域に興味</p> <p>↓</p> <p>Geminiで提示されたものを再検索</p> <p>複数の候補地から訪問先を検討</p>	<p>観光+歴史などの動画を閲覧</p> <p>↑ ↓</p> <p>詳細情報をGeminiで取得</p> <p>ランカウイ島に訪問先を決定</p>	<p>ランカウイ ホテル</p> <p>Googleフライト・ホテルで比較</p> <p>ホテル・航空券予約</p>	<p>Geminiの提案&確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関網が弱い場合、レンタルバイクを利用 地元ならではの土産（ナマコ石鹸）を購入 <p>旅ナカの体験・消費</p>	<p>他ユーザーの投稿を閲覧し旅の余韻に浸る</p> <p>S N S 閲 覧 ※前は投稿</p>
意識・感情	<ul style="list-style-type: none"> 自然が豊かな場所でゆっくりしたい。 Googleマップに掲載された写真は、加工が少ない（本来の姿に近い）。 また、位置情報検索、経路検索が同時にできて便利。 	<ul style="list-style-type: none"> レジャー前の訪問先であるクアラルンプールから近い場所がよい。 ユネスコジオパークに認定による誘客効果を視察したい。 レンタルバイクが豊富で移動が楽にできそう。 	<ul style="list-style-type: none"> フライト代は安く抑えたい 宿泊先は高価にして富裕層を観察したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的地を予め決めずに、その日の気分で決めたい。 サステナブルツーリズムに関連する事例を知りたい。 ↓ 日本人が経営する店舗でナマコ石鹸を購入。 	<ul style="list-style-type: none"> ジオパーク、サステナブル、時間に縛られない移動を通して心身リフレッシュできた。

前回の行動履歴と比較すると

- 「旅マエ」・「旅ナカ」において、Gemini（AI）があらたに台頭。
- 「旅マエ」の認知や比較検討のフェーズだけでなく、「旅ナカ」においてもGeminiを活用。その時の気分に合った訪問先の候補をGeminiに相談し、提案を参考にプランを変更。
- Instagramなどでは「旅アト」投稿をせず。こちらは個人的な理由（例：過度に加工されている写真を見て現地に行くのがガッカリ）でもありますが、最近は旅の思い出の補完（見返し等）として利用することが増えています。

今月のオウンドメディア等

(清水CMOからの情報)

前ページで紹介したとおり、使用媒体（ツール）として、「Gemini」と「Googleマップ」の使用頻度が特に高い結果となりました。以下は使用ツールごとに、可能な範囲で検索回数等を定量的にまとめたものです。

Google マップ (訪問先・ランカウイ島に関するGoogleマップ上での検索回数)



- Googleマップの検索回数は「旅マエ」「旅ナカ」のいずれも高水準であるが、アプリ上での直接検索以上に、Geminiの回答内に提示された参照先リンクからの遷移による利用が目立つ (= AI検索との連動性)。
- マップの特性上、経路検索を主目的とした「旅ナカ」での利用が突出する一方で、「旅アト」の利用はなし。

Gemini (訪問先・ランカウイ島に関するGeminiでの検索状況)

Gemini 検索回数	Geminiの参照元			<備考> () 内の数字は参照率
	日本サイト	海外 (現地) サイト	計	
47回	145サイト (47.5%)	160サイト (52.5%)	305サイト	

- AIの回答生成においては言語の障壁が実質的に消失しており、国内外のサイトを横断的に参照した上で、ユーザーに対応した言語 (今回は日本語) で回答が提示されている。
- 今後は、元のサイト言語にかかわらず (= 情報発信側の言語依存性が低下)、ユーザーの意図に最も合致した情報が優先的に提供される (= 情報の最適化) 可能性が極めて高い。

今回の分析を通じて、受入環境の整備およびプロモーションの両面において、AIを意識した施策の必要性を実感しました。具体的な対策としては、自社ウェブサイトにおいてEAT (経験・専門性・権威性・信頼性) を高める情報発信を行う等、AI検索の参照先として選ばれる情報を充実させていくことが、現時点における最善策であると考えられます。一方で、Googleアナリティクス4 (GA4) をはじめとする既存の分析ツールでは、AIによる参照・寄与度を直接測定する方法が未だ確立されておらず、効果検証が困難であるという課題も残されています。今後も、実効性の高い知見が得られ次第、随時共有してまいります。

